

国際興業バスもいろいろ取り組んでいます。

平成 23 年に国際興業バスが、飯能営業所の撤退について具体的に検討をはじめたことを飯能市に申し出たことを覚えていますか？その後、市の補助金の増額や利用者の増加に向けた取組を行うなどの条件はありますが、山間地域に住む方々の路線バスの役割や必要性を受け入れていただき、運行は継続されました。しかしながら、利用者の減少傾向は依然続いています。

国際興業バスでも、補助金に頼るのではなく、独自で利用者の増加や利便性の向上に向けて様々な取組を行っています。

今回は、その取組の主なものを紹介します。



①飯能ワンコインゾーンの実証運行

昨年 5 月から 1 年間、飯能駅～市役所前間、飯能駅～飯能河原間、飯能駅～飯能高校間は大人 100 円、こども（小学生）10 円で乗車できます。この実証運行については、1 年延長し、来年の 5 月まで実施しています。

②双柳市営住宅線の改編

今年の 10 月 15 日に新光線（飯 13 系統）を廃止し、新たに市営住宅から椿本チエイン、双柳地区行政センター等を結ぶ双柳循環（飯 15 系統）を 10 月 16 日から運行しています。

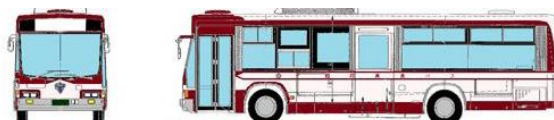
従前から市営住宅線を利用されていた方には、運行距離・時間が増え、ご不便をおかけしていますが、新たな住宅地や地区行政センター前を運行することにより、バス利用者もこれまでよりも増えているように感じています。



③行楽シーズン、お散歩マーケットでの臨時便運行

春、秋の行楽シーズンには、多くの方がバスで名栗地区を訪れます。時間帯によっては、1 台のバスには乗りきれないほど、飯能駅や名栗のバス停に人が並びます。そのようなとき、利用者の「乗せ残し」がないようバスを増便しています。

また、山間の集落にある黒指・細田地区の、「お散歩マーケット」では、市内外から多くの人がバスを利用して参加します。バスの利用者は往復で 1,000 人を超えるため、通常ダイヤでは対応できないことから、毎回臨時便を運行していただいています。



④ギャラリーバス

1950（昭和 25）年に国際興業バス発足した当時のライトパープルとマルーンの塗装を復刻したバスをギャラリーに見立て、写真や絵を展示していただいています。

現在は、「飯能を愛し、飯能を題材に描き続けてきた画家」故小島喜八郎氏が描いた飯能のスケッチ画を写真で展示しています。

路線バスを地域で安定的に運行していくためには、多くの方に利用していただくしかありません。「使えるときはバスを使う」の気持ちで積極的にご利用ください。

「もしバスがなくなったら・・・」と考え、行動してみてください。